

資料68 ゴルフ場使用農薬に係る水質監視調査結果(28年度)

- 調査時期：(府)28年6月、(市)28年8月及び11月
- 調査対象：10ゴルフ場((府)28ゴルフ場のうち7ゴルフ場、(市)全3ゴルフ場)
- 調査農薬：各ゴルフ場で使用され、流出の可能性のある農薬
- 調査結果：5検体で検出されたが、いずれも指針値の超過はなかった。

区分	農薬名	検出頻度*1	検出範囲 (mg/L)	環境省暫定 指導指針値*2 (mg/L)	
殺虫剤	イミダクロプリド	0/4	—	1.5	
	エトフェンブロックス	0/1	—	0.82	
	クロチアニジン	0/9	—	2.5	
	クロラントラニリプロール	0/1	—	6.9	
	ダイアジノン	0/3	—	0.05	
	チアクロプリド	0/2	—	—	
	チアメトキサム	0/4	—	0.47	
	チオジカルブ	0/8	—	0.8	
	ピフェントリン	0/2	—	0.26	
	フェニトロチオン又はMEP	0/4	—	0.03	
	ペルメトリン	0/1	—	1	
	ベンスルタップ	0/2	—	0.9	
	殺菌剤	アゾキシストロビン	1/2	<0.001~0.001	4.7
イプロジオン		0/1	—	3	
イソキサゾール酢酸塩及びイソキサゾールベシル酸塩		0/3	—	0.06(イソキサゾールとして)	
オキシ銅又は有機銅		0/3	—	0.2	
キャプタン		0/1	—	3	
クロタロニル又はTPN		0/4	—	0.4	
ジフェノコナゾール		0/4	—	0.25	
シプロコナゾール		0/3	—	0.3	
チウラム		0/4	—	0.2	
チオファネートメチル		0/8	—	3	
チフルザミド		2/2	0.001~0.004	0.37	
テトラコナゾール		0/1	—	0.1	
テブコナゾール		0/1	—	0.77	
トルクロホスメチル		0/5	—	2	
バリダマイジンA又はバリダマイジン		0/2	—	12	
ヒメキサゾール又はヒドロキシイソキサゾール		0/5	—	1	
プロピコナゾール		0/5	—	0.5	
ベノミル		0/1	—	0.2	
ベンシクロン		0/4	—	1.4	
ボスカリド		0/3	—	1.1	
ホセチル	0/1	—	23		
メタラキシル及びメタラキシルM	0/1	—	0.58(メタラキシルとして)		
除草剤	MCPAイソプロピル塩及びMCPAナトリウム塩	0/1	—	0.051(MCPAとして)	
	アシュラムナトリウム塩又はアシュラム	1/9	<0.001~0.001	10	
	エトキシスルフロシ	0/1	—	1.4	
	エトベンザミド	0/3	—	1.1	
	オキサジアルギル	0/1	—	0.2	
	オキサジクロメホン	0/4	—	0.24	
	カフェンストロール	1/3	<0.001~0.003	0.07	
	キノクラミン又はACN	0/3	—	0.055	
	クミルロン	0/1	—	0.2	
	シクロスルファミロン	0/6	—	0.8	
	ジチオビル	0/2	—	0.095	
	シデュロン	0/1	—	3	
	トリクロルピル	0/1	—	0.06	
	ナプロパミド	0/1	—	0.3	
	ハロスルフロシメチル	0/1	—	2.6	
	ピリブチカルブ	0/1	—	0.23	
	フェノキサスルホン	0/3	—	4.5	
	フラザスルフロシ	0/1	—	0.3	
	プロピザミド	0/1	—	0.5	
	ペンディメタリン	0/1	—	3.1	
	ベンフルラリン又はベスロジン	0/4	—	0.1	
	ホラムスルフロシ	0/2	—	13	
	メタミホップ	0/1	—	0.11	
	メトラクロール及びS-メトラクロール	0/1	—	2.5	
	植物成長調整剤	トリネキサパックエチル	0/3	—	0.15
	合計		5/161		

※1：検出検体数/検体数

※2：採水時点の暫定指針「ゴルフ場で使用される農薬による水質汚濁の防止に係る暫定指導指針」（平成2年5月24日環境庁水質保全局長通知、平成29年3月9日廃止）で定められた指針値。

資料69 地盤沈下水準測量結果（乙訓地域）

- 調査地点 22点（向日市8、長岡京市10、大山崎町4）
- 調査結果

<各市町の16年度までの27年間累計沈下状況>

向日市	最大沈下量	260.6mm	(物集女町長野)
	最小沈下量	127.6mm	(寺戸町蔵ノ町)
長岡京市	最大沈下量	238.3mm	(長法寺南溝口)
	最小沈下量	90.2mm	(開田)
大山崎町	最大沈下量	203.4mm	(円明寺葛原)
	最小沈下量	59.2mm	(大山崎鏡田)